

争議團との公式會見  
某氏の誠意ある態度と  
署長、市長の夜陰に於ける密談

六月廿四日、日曜朝四時より愈々正式に調停員が成立した。即ち  
鈴木中佐、中村四郎兵衛、大野水代法郎、渡辺市長、高野署長、藤田調停室  
長、高野署長、柴田調停室の諸氏であつた。鈴木中佐氏は會社側を、高野署長、  
藤田調停室の諸氏を擁護すること、柴田氏が両者の間を斡旋する。此  
の如く役割を決めて愈々来る廿六日か廿五日の間に開始するからといふ  
言ひが聞かれた。然して、前記の諸氏は廿五日市役所に會合し、此諸氏の打合せ  
を以て、評議會既述の件が持ち出され、企會合の席上、鈴木氏より天野社長の  
評議會への持ち出すことは野暮だ、と意見を述べた。又その席に  
於て天野一派の参謀小竹事務が居合せた。此の意見を述べた。又その席に  
於て八月廿八日、天野署長は初めて調停員の人達の前に、調停を御願ひし、また頭  
を下げ、此から正式に調停に立ち上つた。此の事が天野署長は以前迄の公衆會合がある。  
廿八日、市役所の會議室で両者の大衆参謀者一會見が行はれた。  
中議團代表として、南澤一、野澤二郎、小山以下八名、統計十一名。  
調停員としては、鈴木、大野水、中村四郎兵衛、柴田、市助役、藤田、高  
野の諸氏。

大衆参謀團代表は又々調停者諸君の質問に答へ、また我々の立場を説明  
した。調停者中、資本家側の某氏は、我々の説明を熱心に聴取し、今更らうの如  
く天野の嘘報に便益に驚嘆し、必ず解決の爲めに盡力しやうとさへ誓はれ  
た。

奇怪なる署長、市長の態度!!

署長及市長の行動に就て、先しく市民諸君の御了解を得て置きたい。  
彼れ高野署長は、現に調停員の一入として活動して居ながら一方部下とし  
て、解決の爲めに奔走する争議團幹部を被束せんと意ひかけ廻してゐる。何  
の爲めに幹部を被束せんとするか、何の爲めに争議團を圧迫するか、即ち  
彼れの行動は決して争議を解決する態度ではなく、争議を愈々悪化せしむる  
態度である。將にして斯くの如き片偏片置を採る者に調停員が出来るか、  
更に又渡辺市長の態度である。全氏に就ては既に教言を費やし置いた。  
然るに彼渡辺市長は廿九日、現我々に會見するに當り、イキナリ此處に評議會  
の事は居るか?と、たしかめるや、疑は出して、夜陰に於て彼の高野署  
長と密談し、何事か打合せする如くであつたが、此の時こそ彼等の最後の打合  
せであつた。

怪しからぬ市長の態度  
調停を決裂せしめた責任者  
彼は天野の傀儡となつた

三十日夜の會合中、争議團側代表が會議室に呼ばれたのは午後九時十五分  
である。そして調停者側は署長は相変らずの欠席と藤田調停室が欠席した。バ  
ナ、大野水、中村、鈴木、柴田、市長、助役、高野のお歴々がスラリと